

猿橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

雪から雨に変わるころ

校長 磯部 裕之

2月18日は、二十四節気の「雨水」。暦の上では、空から降ってくるものが、白い雪から雨に変わるころだということです。それなのに、2月中旬を過ぎての寒波や雪。朝の寒さに身震いしていたときに、近所の農家の人が「雪は降るときに降ってもらわないと、翌年、害虫が出て大変なんさ」と言っていたのを思い出しました。

この2月18日の新聞のコラムには、こんな記述がありました。

雨まじりの重い雪は、北国の人々をときに閉じ込め苦しめるけれど、やがて春水となり、大地を豊かに潤す。



そう言えば、先日、5年生教室を通ったときに、ある子が、6年生に渡すメッセージカードを一生懸命に仕上げていました。「このイラストは1・2年生が、ここのイラストは私が描いたんです」と説明しながら丁寧にイラストを描き足していました。

この季節、毎朝テレビに映し出される東京の晴れた空を見ては「カラカラと晴れていいなあ」と思っていた私でしたが、この5年生の姿を見て、この雪や寒さは、雪国に住む私たちに、寒さに負けない粘り強さや人のことを思う温かい心を育ててくれているのかもしれないなとも思いました。

感染症の広がりによって1週間延期になった六年生を送る会。それでも子どもたちは六送会当日に向けて一生懸命に準備を重ねています。毎日続く寒さの中で、一生懸命に歌を歌い、動きやせりふを覚えようと練習する子どもたちは、本当に立派です。自分のためでなく、「6年生のために」という思いが、さらに、また1～5年生の頑張りを支えているのかもしれない。

卒業式が学校主体の儀式的行事であるのに対して、この六送会は、子どもたちが主体、子どもたちが自分たちの力で6年生の卒業を祝う「手作りの卒業式」です。これまでの感謝の思いをどんなパフォーマンスで表現してくれるのか、本当に楽しみです。きっと、素晴らしい会になることは間違いないでしょう。

【2年生作成；6年生教室前廊下の飾り】



【3年生作成；6年生の靴箱の上の飾り】



(校舎の中は、6年生への感謝の思いでいっぱいです)